

感染/
拡大中

麻しん(はしか)から 自分と家族を守ろう

△ 麻しん(はしか)が急増しています

2026年に入ってから7月15日までに報告された麻しんの患者数は547件で、前年の累計患者数265件の2倍をすでに上回るペースで拡大しています*。
麻しんはとても感染力が強く、マスクの着用や手洗いのみで感染を防ぐことは困難です。主な症状としては、高熱・発しん・せきなどがありますが、肺炎や中耳炎、まれに脳炎を併発する場合があります。

自分や家族を守るためにも、早めのワクチン接種を心掛けましょう。

*出典:国立健康危機管理研究機構「麻疹 発生動向調査 速報グラフ 2026年」

※麻しんの感染が疑われる場合は、事前に医療機関に電話で連絡してから受診してください。

待合室で他の患者さんに感染を広げないためにも、医療機関の指示に従って受診することが重要です。



詳しくはこちら



厚生労働省
「麻しん(はしか)」



MRワクチンの2回の接種が予防のカギ

麻しんには特効薬がないため、MRワクチン(麻しん風しん混合ワクチン)を接種して予防することが一番の対策です。ワクチンを2回接種することで、約95%の人が麻しんと風しん*に対する免疫を付けることができますといわれています。一人一人のワクチン接種が感染の拡大を防ぎます。ご自身と大切な人を守るためにも、ぜひ2回の接種をご検討ください。

*風しんとは、発熱や発しん、リンパ節の腫れなどの症状が出る感染症です。

妊娠中の方がかかると、赤ちゃんに目や耳、心臓などの障害が出る恐れがあり、特に注意が必要です。

特にワクチン接種が必要なのはこんな方

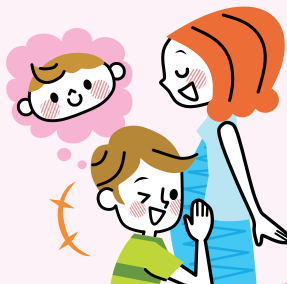
- ✓母子健康手帳などで2回の接種記録が確認できない方
- ✓現在、30～50歳代の方
- ✓妊娠を考えている方
- ✓妊娠中の方と同居している家族・パートナーの方
- ✓海外(特に流行国)への渡航予定がある方



妊娠中の方・妊娠を考えている方へ

妊娠中に麻しんに感染すると、流産や早産のリスクが高まる場合があります。妊娠中の方は、麻しんの流行時の外出をなるべく避け、人混みには近づかないようにしましょう。

妊娠中はMRワクチンの接種ができません。そのため、妊娠前の早めのワクチン接種が必要です。妊娠を考えている方は、あらかじめ1か月間程度避妊した後接種すること、ワクチン接種後2か月程度は妊娠を避けるなどを心掛けましょう。



麻しん(はしか)Q&A

Q 以前、麻しんにかかったことがあります。それでもMRワクチンの接種は必要ですか？

A 麻しんに一度かかると免疫は一生続くといわれているため、基本的にワクチン接種は不要です。ただし、かかった記憶があいまいな場合や、医療機関での診断が確認できない場合は、ワクチン接種を受けておくと安心です。なお、過去に麻しんにかかったことがある方がワクチンを接種しても、副反応が強くなることはありません。

Q ワクチンを接種したかどうか分からない場合は、どうすればよいですか？

A まずは、お近くの医療機関にご相談ください。接種歴が分からない場合は、「未接種」として2回の接種を受けるのが一般的です。また、抗体検査を受けて、その結果に応じて追加接種を勧められることもあります。いずれの場合も、医師の指示に従って対応しましょう。

※MRワクチンの追加接種や抗体検査は健康保険の適用外ですが、自治体によっては公費助成が受けられます。お住まいの自治体のWEBサイトなどで確認してみましょう。